

## ミュージアム・インクルージョン・プロジェクト訪問記録

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>県立考古博物館</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
| <p>カテゴリー： 博物館</p>                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                    |
| <p>所在地： 加古郡播磨町</p>                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                    |
| <p>調査 隊：兵庫県聴覚障害者協会<br/>(訪問日：2023.11.21 )</p>                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                    |
| <p>障 害 種 別：聴覚障害</p>                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                    |
| <p>プロジェクト参加への動機：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 19 年開館時より開かれた博物館をめざしていた。そのなかで、博物館が障害のある人にとって、「敷居が高い」と思われている理由が知りたい</li> <li>・近年、放課後デイサービスや特別支援学校の利用が増え、障害者向けのプログラムを開発する必要があると考えた。</li> <li>・ユニバーサルプロジェクト(134 名の館ボランティアのうち 13 名が参加)に取り組んでみて当事者の目線を知り、疑問点などを解消したいと考えた</li> </ul> |                                                                                    |
| <p>PR したいところ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な人にわかるように展示に工夫を凝らしていることに気付いて欲しい</li> <li>・コンセプトが「体感してもらう」なので、小学 6 年生がわかることをスタンダードに、シンプルな説明を心がけている</li> <li>・`実物大、を復元</li> </ul>                                                                                                    |                                                                                    |
| <p>特別な配慮を必要とする人(高齢者・障害者・外国人など)向けのプログラム・配布物がありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語・中国語・ハングル語で表示された館内案内がある</li> <li>・障害者向け講座があり、`ユニバーサル、と表記している(一般の講座でも可能な限り、障害者を受け入れている)</li> </ul>                                                                                              |                                                                                    |
| <p>障害者への対応をしていることはありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体は予約受付時に詳細な事前打ち合わせをし、対応やプログラムなどの希望を聞いている(事前の準備をしっかりとすることで、満足度を高める努力をしている)</li> <li>・障害者手帳を持って入館されても、望んでおられるかどうか分からないので、特にお申し出がなければ特別な扱いをしない</li> </ul>                                                                   |                                                                                    |

障害のある人が来館されて、困ったこと／どうしていいかわからなかったことはありますか？

- ・体験時に車椅子ユーザーに対して、作業台の高さが合っていないことがあった  
→車椅子用の机を購入し配置した

## 調査報告

よかった点(いいな、と感じた点)

- ・大中遺跡から出土した遺物を見ることができ、楽しむことができた
- ・手話言語通訳が付いてくださったので、学芸員の方のお話をスムーズに聞くことができた。各場面(ブース)で工夫されていることや体験目的、発掘された遺物の管理方法、ちょっとした裏話など普段直接聞けないお話をより詳しく聞くことができよかった。気軽に質問することもでき、この博物館のファンになるくらい身近に感じることができた

調査隊が「こうすればもっと楽しめる」と感じた点

- (館としての考えられる対応策→
- (A)すぐにやれそうなのでやってみよう
  - (B)色々な内容を精査して中期的に計画しよう
  - (C)長期的に検討課題としよう
  - (D)対応が難しい・できない

## プログラム

- ・体験コーナーでは体験したいときに手話言語通訳がいないと諦めがち。「聞こえない人・聞こえにくい人には筆談で対応します」という表示があると嬉しい
- ・手話通訳なしで体験に参加したとして、説明が聞こえないので見よう見まねでやってしまう。そうすると自分勝手にやっていると思われそうで不安である
- ・手話言語で楽しめるツアー、担当の方とあらゆる方法でコミュニケーションしながら見学できる機会があると嬉しい  
→プレミアム芸術デーにおいて、手話ガイドツアーを実施した。参加者は2名

## 展示

- ・館内の音声解説がある箇所には手話言語解説も欲しい  
→(C) 動画の字幕化を長期的に検討する
- ・手話ができるガイドの配置が望ましいが、難しければビデオシアターの映像の解説に字幕と手話を付けて欲しい  
→(C) 動画の字幕化を長期的に検討する  
→(D) 現状の予算では手話通訳者の常駐は困難
- ・映像でどんな音が流れているか気になります。オノマトペやリズムなどを文字や色で発信できれば聞こえない人も感じる事ができる。また音声のない映像には音声がないことを示してもらえれば安心できる  
→(B) 展示の効果音や映像の台詞の吹き出し付き解説カードを作成する  
音声ガイダンスカードなど音声情報を視覚に落とし込む

- ・QR コードでつながった解説文をスマホで知る方法と合わせて、手話言語による解説動画もあるとっと楽しむことができる

## 施設

### 受け入れ体制

- ・聴こえない障害の人が入館してきたな、と思ったら「ようこそお越しくださいました。ごゆっくりご覧ください」というようなことを書いたボードを笑顔とともに掲げてもらえるだけで嬉しいと感じる。できれば、受付の方にはあいさつ程度でも手話言語を習得してもらえると嬉しい

→(A) 受付担当者全員が手話でのあいさつができるようにする

- ・受付カウンターに「耳マーク」があったが、端の方に置かれていたので気付かなかった。見えやすい場所に置いてほしい

→(A) 受付カウンターの改善

「筆談できます」と書いた筆談ボードを見える場所に設置し、ストレスなく筆談ができるようにする

- ・受付に「コミュニケーションボードあります」の表示があったが気付かなかった。

→(A) 受付カウンターの改善

- ・コミュニケーションボードに必要なことが記載されているかどうか分からないので、ポン！と差し出されてもどうしたらいいのか戸惑う。コミュニケーションボードを出すタイミング

### その他

- ・職員向け研修で手話入門講座を実施し、聴覚障害と聴覚障害者について知って欲しい

→(A) 受付担当者全員が手話でのあいさつができるようにする

- ・筆談はとりあえず、伝えることはできるが、文字を書く人も読む人も負担になり、伝えよう、知ろうという気持ちが薄らぐように感じる。

## ★プロジェクトに参加して

### 調査隊の感想

- ・この博物館が子どもから大人まで楽しく学ぶことができるよう工夫されていることがよくわかった。それだけに聞けない人も一緒に楽しめる博物館であって欲しいし、聞こえない人も楽しめる博物館のモデルとなって欲しい
- ・情報保障については、機械や AI で補完するのではなく、その場に応じた適切配置・整備が必要だと考える。
- ・県内にある博物館美術館関係者が一堂に会して研修会などを考えてもらえると嬉しい

#### 施設の感想(気づきや発見)

- ・今後は他の障害がある方の意見も聞いて取り入れていきたい
- ・車椅子ユーザーについても同様に意見が聞きたい
- ・聴覚障害者に向けた展示・見学はパネルなどの文字情報の提示で十分に対応できていると思っていたが、手話解説による展示の要望が高いことがわかった。
- ・当事者との意見交換が大事だということがわかった